2020
3
No. 688

國學院大學學報

「卒業する人々に」
櫻の花ちりぐ〳〵にしも
わかれ行く　遠きひとりと　君もなりなむ
（「春のことぶれ」）
釈　迢空

国学院大学
令和２年３月20日（金・祝）　定期号（毎月20日発行）１部20円
［発行］国学院大学　［編集］総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目　［電話］03（5466）0130　［FAX］03（5466）0528

祭　儀　■ **入学奉告祭**　４月１日（水）　午前10時　神殿

2601人、学び舎を巣立つ

新時代に確かな足跡を

本学は、「令和」最初となる元年度（128期生）は大学院73人（博士前期課程63人、博士後期課程10人）が修了を迎え、15人が所定単位修得退学。また、５学部2488人（文学部820人、経済学部567人、法学部529人、神道文化学部190人、人間開発学部382人＝９月卒業含む）、専攻科19人、別科６人の合計2601人が学び舎を後にする。

予定されていた大学院学位記授与式（３月21日）と、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」での５学部の卒業証書・学位記と専攻科・別科の修了証書授与式（同22日）の式典は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け中止となった。卒業証書・学位記、修了証書授与は一部予定を変更して実施する。

キャンパスを巣立つ４年生はどのような「卒業後の夢」を描いているのか、写真とともにお届けする。

混迷を極める社会へ飛び出す若人たちに、針本正行学長をはじめ機関長が「はなむけの言葉」を贈り、128期生の大いなる活躍に期待の念を込めた。

一方、３月末で定年退職を迎える教職員は10人。キャンパスでの思い出を振り返り、「惜別の言葉」を寄せた。

輝かしい未来を言祝ぐ

学長　針本 正行

卒業おめでとうございます。所定の課程を修めて、新たな道へ旅立つみなさんの輝かしい未来を心から言祝ぎいたします。

みなさんの「学び」は、大学生活だけで完結するものではなく、生涯にわたって紡ぎだす「知」の出発点となるものです。「卒業」は、新たな学びの始まりであり、一人の人間としての自己実現を果たすための「始業」でもあるのです。

みなさんは、平成から令和という歴史の転換点に立ち合いました。平成という時の流れの中で、学科、専攻のカリキュラムで構成された講義、演習、実習を通して、既存の学問知を学び、時に疑い、仲間と議論し、自身の「知」の創造につとめ、また、課外活動においても、先輩から技術、学芸を学び、後輩へ継ぐという「学び」もあったことでしょう。それぞれがかけがえのないものであり、経験であったと思われます。今後は、大学での学びを糧にして、それぞれが選び取った道へ一歩踏み出し、令和の御代に確かなる足跡を残していただければ幸いです。

現代は、人工知能（ＡＩ）やＩｏＴなどの技術革新が加速し、これまで人間が担ってきたことが機械に代替され、人間は何ができるのか、何をすべきかと問いかけられている時代です。だからこそ、自身の心の内にある思いに素直に向き合うことができるのではないでしょうか。

卒業後も、さまざまな「学び」の扉を敲き続け、自らの生き方を問い直し、自己実現を果たされることを期待しています。

みはるかすもの

中東戦争に端を発した第１次オイルショックが起こった昭和48（１９７３）年。年末の愛知県小坂井町（現豊川市）、豊川信用金庫小坂井支店で突如として預金者が殺到し、１日で14億円が引き出された▼騒動の３日後の新聞は、女子高生が電車内で就職の話をする中で語った「（強盗などがあって）信用金庫は危ない」という趣旨の冗談が発端だったと伝える。冗談がうわさとなって広まる中で「経営が危ない」と断定的な情報になり町中が騒動になった▼「考えてみたらバカバカしい」と再契約した預金者もいたようだが、不安が漂う社会では何が起こるかわからない▼収束の糸口すら見えない新型コロナウイルスに関連しても「トイレットペーパーの原材料が、マスク製造で使われて足りなくなる」というようわさが社会を混乱に陥れている▼ＳＮＳなどで誤った情報はあっという間に列島を駆け巡る。人間のもろさは、技術が進歩しても変わらない。病気を恐れつつ日常生活を守るには、正しい情報を見極める冷静さを失ってはならない▼暗澹たる空気が漂う旅立ちの春。ささやかながら卒業生・修了生の門出の時を祝いたい。〈昨日またかくてありけり／今日もまたかくてありなむ／この命なにを齷齪／明日をのみ思ひわづらふ〉島崎藤村の「千曲川旅情の歌」の一節である。決して未来は暗いばかりではない。一度きりの人生を、着実に、時には大胆に歩みを進めてもらいたい。

学位記授与式、卒業式の中止について

国学院大学は、国内での新型コロナウィルスの感染拡大に伴い、開催予定でした「第68回大学院学位記授与式（修了式）」（３月21日、渋谷キャンパス）、「第128回卒業証書・学位記ならびに修了証書授与式（卒業式）」（３月22日、グランドプリンスホテル新高輪）の中止を決定しました。大学院および学部主催の祝賀会も中止します。

大学院の学位記授与、５学部および神道学専攻科、別科神道専修の卒業証書・学位記ならびに修了証書授与は、予定を一部変更して渋谷・たまプラーザキャンパスで実施します。

国学院大学

主な内容　**2・3面**／はなむけの言葉　**4・5面**／夢へまっすぐ 未来を創る私たち　**6・7面**／惜別の言葉　**8面**／インフォダイジェスト

KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th 1882–2022

情報を絶えず疑う眼をもって

大学院委員長　根岸 茂夫

博士前期課程ならびに後期課程を修了される皆さん、所定単位を修得され社会に出る後期課程の方々に、心からお祝いを申し述べます。

皆さんは数年間、本大学院で研究を続け、成果を得て新たな道に進むことになりました。ただ大学院における研究が、今後の仕事に直接役立つ人は多くはないかもしれません。大学院における研究は狭く深く、実用的な内容ではなかったと思います。

しかし皆さんは研究の証拠となる資料や文献を収集し、分析を加える作業を、確実に修得したのではないでしょうか。資料を収集して多様な角度から分析し、その資料を研究の証拠として考察し、資料が作られた背景の社会や文化を見通すという作業は、先ず資料を疑うことから始めます。また資料は情報という語に置きかえることもできます。

情報が如何に不確かで変化するものかは、本年のコロナウイルスの報道や各機関の発表を、日時を追ってみても分かるでしょう。今後時間が経過するにつれ別の情報が出てくるはずです。この情報の一つだけを使い全体像を作り上げて論文を作成すれば、事実と異なる内容になりかねません。われわれは、情報が何時どの段階で誰によって作成され、どの段階で誰によって秘匿されあるいは公表されたのかを、社会の変化の大きな流れの中で位置づけながら、より多くの情報を収集・分析して考察しなければなりません。

卑近な例をあげましたが、皆さんが今後直面する課題に対し、資料や情報を収集し如何に分析するのかを考えながら、修士論文・博士論文を作成した経験をもとにその成果や反省を真摯に受け止め、今後研究・教育あるいは高度な専門分野などで活躍され、社会や文化の発展に寄与されることを願っています。

不確実な新時代への挑戦に期待します

経済学部長　橋元 秀一

ご卒業、おめでとうございます。新たに社会へ踏み出されるみなさんへ、心よりお祝いと激励の挨拶を贈ります。

新型コロナウイルス感染症の広がりもあって、経済社会の不透明感が強まっています。みなさんが向き合う経済社会は、どのような情勢にあるでしょうか。「法人企業統計調査」によれば、日本企業全体は、平成25年以来過去最高の経常利益を6年間も続けています。外国人観光客が年々増え、オリンピックへ向けた建設需要が拡大し、人手不足が広がりました。しかし、消費税増税による低迷や米中貿易戦争・英国EU離脱の影響による外需減退など、国内外の状況には厳しいものがあります。こうした中で、今回の感染症の影響が起こり、東京五輪・パラリンピック終了後の需要減も予想され、不確実で予想困難な先行きにあります。

しかし、長期的に見れば、さまざまな物がインターネットに接続され情報通信を通じて制御できるシステムであるインターネット・オブ・シングス（IoT）が広がり、ビッグデータや人工知能（AI）を活用する第4次産業革命が進み始めています。ソサエティー5・0といわれる狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に次ぐ新時代への展望も提唱されています。国内での設備投資や消費は、将来的には本格的に上向いていく時代へと向かっているのです。

困難に見える時代にこそ、みなさんの若々しい感性やリスクを恐れぬ行動力が新しい時代を切り拓きます。大学で培った力や学生時代の絆を生かし、お元気に活躍されることを切に願っています。経済学部は、院友経済会とともにビジネス塾を開設し、卒業生の学びの場を作りました。これからも学んでいきましょう。またお会いしましょう。

積小為大

神道文化学部長　西岡 和彦

ご卒業おめでとうございます。本学で学んだことを基礎に、これからの人生も充実あるものにしてほしいと願います。そのためには、卒業後も勉学を続けなければなりません。そこで皆さんに二宮尊徳の「日かけ縄ないの法」をご紹介したいと思います。

これはいわゆるスキマ時間の活用法であります。尊徳は作業後の時間を持て余す農民を対象に、わらじ作りを勧めました。器用なものなら夜なべで2、3足以上作ることができます。たとえ1足数文程度であったとしても、1週間も経てば、それなりの売り上げが見込め、さらに1月、1年と続ければ、積もり積もって大きな収入になります。そうなれば自信となり、さらに多方面への勤労にまで繋がってゆくことでしょう。尊徳はそれを「積小為大」と称しました。

この「積小為大」を皆さんにも実践してほしいと思います。通勤電車内でスーツを着た社会人が、スマホ片手にゲームをしていたり、ビデオを見ていたりしているのをよく見かけますが、実に勿体ないことです。それを読書に改めれば、たとえ片道10ページ程度であろうとも、1年間で何冊も読破することができるでしょう。英単語だけなら数千語をマスターすることすらできます。もちろん、ゲームやビデオは一時の気休めになるでしょうが、それでは決して将来には繋がりません。それを勉学に改めれば、気休め以上に計り知れない可能性を手に入れることができるのです。

卒業を機に、本学で学んだ多くを化石にしてしまうのではなく、生きた学問にするためには、常日頃から意識的に勉学を続けなければなりません。「積小為大」を信じて、卒業後の明るい未来を自ら切り拓いて下さい。

いざ漕ぎ出でむ

専攻科長　武田 秀章

顧みれば、皆さんとは入学式で初めて相まみえました。式典が終わるや、揃って明治神宮に直行しました。泣く子も黙る明治神宮実習の始まりです。ミニ献詠歌会の詠草には、次の歌がありました。

「行く先に不安はあれどさりながら　令和の御代を作るは我ら」

これ以降、皆さんは、専攻科での学修はもちろんのこと、聖地に赴いてさまざまな経験を積みました。

忘れがたいのは、石清水八幡宮での勅祭奉仕の経験です。神人の装束に身を包んだ皆さんと、大神のお供をさせていただきました。仲秋の名月のもと、庭燎のはぜる音が、今も耳に残ります。

信州への研修旅行では、神仏習合の名残を留める宿坊で懇親を深めました。戸隠神社参拝では、列島のフォッサマグナを鎮める天手力雄命の霊威を、しっかりと身にうけることができたのではないでしょうか。

けれども、やはり最も思い出深いのは、1年間にわたって皆さんと共にした「授業の時間」です。

あたかも昨年は、令和の御代替りの年でした。神器のご継承、大嘗祭のご斎行を目の当たりにしながら、神代に遡るわが国の由来、神代以来の「祭りの国」の歴史を、共々に辿ることができたのです。それはまさに、リアルタイムでわが国柄を体感する貴重な時間だったのではないでしょうか。

最終授業時、皆さんは銘々の所感を詠じた歌を届けてくれました。

「奥深き学びの山より降り来て　果て無き海にいざ漕ぎ出でむ」

渋谷の丘で切磋琢磨したかけがえのない日々。全国津々浦々、皆さんの格別のお働きを、衷心より期待して已みません。

卒業おめでとう

山路を登りながら……

文学部長　石川 則夫

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。住みにくさが高じると、安いところへ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。」

夏目漱石『草枕』の冒頭です。日々の雑事に追われていると、痛感するのは人間関係の難しさ。その内実をこの文章は実に的確に言い表しています。もちろん学生生活でも、演習でのグループ発表やディスカッションなど、クラスメートではあるもののお互いの考えを出し合い、意見を調整しつつ、時には言い争いまで経験しながら発表レジュメをまとめ上げ、プレゼンしなければならなかった。もう何度も経験済みのこと。機転の利く人がいれば、頑なな人もいたわけで、好きで始めたサークル活動でも、先輩、後輩の間に立って大変だった。そうそう、「智」と「情」と「意地」にぶつかって苛まれるのが人間関係なのだなぁと思い当たります。

しかし、これは社会人への第一歩でもあったわけです。明日からはクラスメートでも、サークル仲間でも何でもない赤の他人が次々に現われてはあなたに難題を突きつける、とまでは言わないまでも、あなたの仕事に関わるというだけの他人様と良好な人間関係を築いていかなければ、毎日のご飯がいただけない。あぁ疲れた、嫌になった、「人の世は住みにくい」と悟ったら、「詩」と「画」を思い出しましょう。単に芸術というだけではありません。世にある人々が築き上げた文化の粋を思い出してください。それを本学で学んだのですから。皆さんの学びが皆さん自身を励ましてくれることを忘れずに。

社会人生活における「理屈と人情」

法学部長　一木 孝之

ご卒業おめでとうございます。ご入学来のたゆまぬ学修の成果に対し、心より敬意を表します。

皆さんは、所属する学部や学科において、専門的知識の習得と、それに基づく思考力の研磨に努められました。これらの知見は必ず、今後の社会人生活において、皆さんを輝かせる武器となります。

しかしながら、知識の一方的な披瀝や、「正論」の強調は、必ずしも歓迎されるわけではなく、むしろ反発に遭うこともあります。かといって、周囲への同調にばかり意を尽くしていれば、正道から外れるおそれもあります。あらゆる感情に忖度すれば、正常な判断もままならないほど疲弊してしまいます。

民法学者の我妻栄（1897～1973）は、法律における理屈と人情の調和という問題に取り組み、理屈を司る法律（大前提）が固定であるとき、これを当てはめる事実（小前提）を動かして、人情にかなう結論を導く可能性を示し、フィクションを用いる解決を、「嘘の効用」と呼びました。しかしながら、こうした操作が常に成功するとは限りません。そこで我妻は、事実に法律を当てはめる作業（解釈）そのものに着目し、精緻でありながら柔軟な論理システムの構築こそが最善であると説きました。

こうした「精緻性と柔軟性の併存」とは、法解釈のみならず、あらゆる社会生活、とりわけ経済活動においても極めて重要であるように思われます。対人関係における上首尾とは、実は、相手方との対話の中で得られる納得に基づく相互の妥協に求められるとすれば、充分に練られた思考と臨機応変な姿勢こそが鍵であるからです。

社会人としての皆さんが、骨太に、そしてしなやかに活躍されることを期待します。

自分のありかたを意識する

人間開発学部長　成田 信子

国学院大学をご卒業されるみなさん、新しい門出おめでとうございます。

学生生活に別れを告げて、これから社会の大海原に漕ぎ出していくみなさんに、心から応援の気持ちを送ります。それぞれの進路に向かって新しい一歩を踏み出し、今までとは違う立場でさまざまな人とかかわって大きな可能性をひらいていってください。

これからの日本の社会は、今までにないほど大きく変わっていくことが予想されます。学生時代は気の合った仲間と苦楽を共にして自分を磨いてきたと思いますが、これからは自分とはおおいに違うほかの人たちと共同で物事を成し遂げることが求められます。文化や考え方がますます多様になり、これから出会う多くの人とどうやってコミュニケーションをとり、どうやって共に生きていくのかが問われるでしょう。多様性のなかで生きていくのは、同質性のなかで生きていくよりも実はたくさんの可能性に満ちていると思います。「あれっ」と思った瞬間がチャンスです。予想を超える反応こそ、若い柔らかい心で受け止めて、より豊かななにかをつかんでいってください。

もう一つ、これからの社会には膨大な情報があふれ、知らず知らずに自分もその情報の一部として取り込まれていくようなこともあるかもしれません。例えば、自分の趣向や行動がいつの間にか情報として蓄積されて、どこからか消費行動についてもコントロールされるような事態も想定しておかなければなりません。便利だが、実は自分で決めていると思ってもそうではない可能性も意識しておいてよいと思います。

自分のありかたを意識し、大きな海原で成果をあげられんことを祈ります。

国柄を支える神職に

別科長　茂木 貞純

別科生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。修学と神務実習の学生生活を無事に乗り切り、めでたく卒業となられたこと、嬉しく思います。昨年は新帝陛下の即位儀礼が厳粛に行われ、伊勢の神宮や大嘗祭が大きな話題となり、国の本質と神祭りが密接な関係にあることを、多くの国民が知る機会となりました。

地域社会に鎮座する神社は、その地域の歴史と発展の要として、氏子崇敬者の祈りの心に支えられて、神代さながらの境内や社殿を今日に受け継いでいます。私たち神職は、その神社に御奉仕するわけです。誇らしいことであります。是非、一歩一歩前進して、立派な神職に成長してください。氏子の皆さんから信頼される神職になってください。

さて、大八島と呼ばれた日本の成り立ち、建国の由来は、日本神話に伝えられています。天孫降臨神話によれば、皇孫が高天原より天降るとき、皇祖天照大御神から大事なお言葉を賜って、高千穂の峰に降臨してきます。以来、皇祖神の祭りを怠らず、稲作に精励し、発展を続けて、126代の今上陛下まで万世一系で現在に至っています。

御歴代の天皇は、御代始に一世一度の大嘗祭を行われてきました。天孫降臨の原点に遡って、天照大御神をお祭りしていることが、その祭式の中に生きています。神代のままに祭りが続けられているのです。天皇陛下の祭りとともに、神社の祭りは国を根底のところで支えています。神話が生きる国であります。この国柄を支える神職として、大いに励んでください。

夢へまっすぐ 未来を創る私たち

平成から令和へ。私たち128期生は、この記憶に残る年に「令和初」の卒業生として、長くもあり短くもあった４年間の学生生活を過ごした国学院大学のキャンパスから巣立ちます。母校の学びでは、多くの知識や理論を得ただけでなく、かけがえのない友とふれあい、人生の糧となる経験の連続でした。これまで育ててくれた家族、お世話になった恩師へ、私たちの「夢」や胸に秘めた思いを伝えます。

平成28年～令和２年 いろいろあった４年間

国学院大学128期生が入学したのは平成28年４月。
上皇陛下が８月に譲位のお気持ちを表明され、年末には人気グループSMAPが解散した。
29年の「時の人」は、将棋界の藤井聡太さんと、日本人選手で初めて「10秒の壁」を破った陸上・短距離の桐生祥秀選手だった。
30年７月、オウム真理教事件に関与した13人に死刑執行。
９月にはテニスの大坂なおみ選手が全米オープンを初制覇した一方で、人気歌手の安室奈美恵さんが引退。
11月には2025年の「大阪・関西万博」開催が決まった。
31年４月30日に上皇陛下が譲位され、翌５月１日に天皇陛下が即位されたことで「令和時代」を迎えた。
７月には大阪の百舌鳥・古市古墳群がユネスコ世界文化遺産に登録。
９月開幕のラグビーW杯で日本代表が初めて８強に進出し、
本学陸上競技部が10月の出雲駅伝を初制覇するなどスポーツ界も盛り上がった。10月には消費税率が10％に上がった。
『日本書紀』編纂1300年の令和２年も本学陸上競技部の快進撃は止まらず、
新年恒例の「箱根駅伝」で史上最高の総合３位の好成績を残した。
この４年間は自然災害も多かった。熊本地震（平成28年４月）、九州北部豪雨（29年７月）、
草津白根山噴火（30年１月）、大阪府北部地震（同６月）、西日本豪雨（同７月）、
北海道胆振東部地震（同９月）…元号が「令和」となってからも台風が次々と東日本を襲い、甚大な被害が発生した。

本企画にご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。そしてすべての卒業生・修了生のご活躍とご多幸を祈念いたします。　国学院大学広報課

国学院大学 院友会 へようこそ！

国学院大学の同窓会

国学院大学の卒業生は、「院友」と称され、一般財団法人国学院大学院友会（吉田茂穂会長＝昭40卒・73期政経、昭41修・74期神専攻）の会員となります。令和２年３月１日現在、院友の総数は15万人を超えています。また、全ての都道府県に支部があり、合計59支部を数えます。他に学術関係、マスコミ関係、経済学部関係、法学部関係と職域などに分かれた４つの協力団体もあります。

本会の活動は、母校の設立趣旨を発揮し、本会の発展と本学の隆昌に寄与することを目的としています。本会ではこの目的を達成するため、「院友大会」や「新年院友交歓会」をはじめ、各種講座、講演会、コンサート、茶道教室などを主催しています。さらに、同窓会報である「院友会報」の発行、公益事業の展開、院友の活動拠点となる「院友会館」の運営も行っています。また、各支部でも地域における公共活動や事業を行っています。

本会の活動などは、院友会HP（https://www.kokugakuin.or.jp/）もぜひご覧ください。

問 院友会事務局（☎03・3400・7781）

毎秋開催されるホームカミングデーには多くの院友が集まる

国学院大学院友会の歩み

明治20年「水穂会」結成が原点

●創設の頃

明治15年に国学院大学の母体・皇典講究所が設立され、20年にその卒業生が「水穂会」を結成したのが院友会の原点です。23年に「国学院」が皇典講究所の教育機関として設置され、27年にその卒業生によって「水穂会」とは別に「院友会」が組織されました。その後、２つの会が共に活動するようになり、神職関係の「教友会」も昭和７年に加わり、「院友会」として統一されています。

●院友会館と財団法人の設立

院友の団結は他大学に類を見ないほどで、各地・職域で活発な活動が続けられました。昭和６年には大学に隣接した現在地に１０９４平方㍍の土地を求め、組織も財団法人となり、７年には初代会長・宮西惟助氏の推進によって「院友会館」（６２７平方㍍）が鉄筋コンクリート２階建てで建築されました。会館は本会活動の拠点となり、卒業生・在学生・教職員の会合などにも盛んに活用されました。しかし、55年ごろから老朽化・狭小化などにより新たな会館建設を求める声が高まり、第９代・小林武治会長のもと60年度から募金を開始。61年４月に着工、翌62年４月には現在の新会館が竣工しました。

●地域発展の使命を

新しい会館の完成とともに、全国の院友の間に組織の強化・活動の活発化への新たな息吹がみなぎり始めました。会館は、院友の活動拠点としてのみならず、学術・文化・芸術活動の場としても利用され、若い世代の会員の協力により、本会が飛躍発展する気運が興り始めました。さらに、国際交流や学術・文化教育への振興・助成活動に力を注ぐ計画も準備、母校の発展に加え地域の発展にも資する使命を発揮しています。

院友会館

●「一般財団法人国学院大学院友会」へ移行

平成18年５月に公益法人制度改革関連３法が成立したことにより、新しい制度に移行すべく『定款』（法人の基本規則）を作成、24年６月15日に内閣府への移行認可申請を行いました。その後、９月19日付で内閣府から許可証が交付され、10月１日付で「一般財団法人国学院大学院友会」の登記を行い、新たな組織として再スタートしました。

恒例の院友大会は延期に

院友会では、新卒業生・修了生がキャンパス集う機会として毎年5月に院友大会を開催しています。今年は５月23日に渋谷キャンパスで開催予定でしたが、新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため一般公開講演会、院友会全国支部長会議を含めて延期となりました。今後の情報は院友会ＨＰ、Twitter、院友会報で順次公開します。

「国学院大学学報」購読のご案内

本学の機関紙を定期購読してみませんか？

「国学院大学学報」は、本学の学生・院友・教職員の活躍や、本学のニュースをお届けする機関紙（年11回発行、８月は休刊）です。

年間購読料は500円（税込み・送料含む）。また、感想などもハガキ・封書・ＦＡＸ・Ｅメールにて随時募集しております。購読ご希望の方は、広報課までご連絡ください。

お問い合わせ先

国学院大学総合企画部広報課
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
［電　話］03・5466・0130（直通）
［ＦＡＸ］03・5466・0528
［メール］kouho@kokugakuin.ac.jp
［Ｈ　Ｐ］https://www.kokugakuin.ac.jp/

惜別の言葉

最後は自分

45年前、私が就職したのは25歳の時であった。当時は国立大学におり身分は安定していたが、本学に移るまでのその後の30年間は基本的に独学であった。そういう時に聞いた「学問は所詮孤独な作業だ」という、ある先輩教師の言葉が今も耳に残っている。できる限り研究会に参加したとしても、自分の論文をまとめるとなると、結局は全ての責任を自分が負わなければならない。独りよがりに陥らないためには、周りの人の言葉に虚心に耳を傾けなければならないが、周囲に気を配りつつも、確かに学問は所詮は孤独な作業なのである。

学生諸君の皆さんにはこれからどうしていこうかと悩んでいる人も多いだろうし、卒業する諸君は希望の一方で不安も胸に抱えているであろう。しかし、最後に自分で決めなければいけないのは、何も学問に限らない。諸君には絶えず自分を反省しつつ、着実に一歩一歩前進していって欲しい。御健闘・御活躍を期待したい。

文学部教授　**金子 修一**

国学院の思い出

私は今年古希を迎え、国学院大学を退職することになりました。本学に奉職したのは１９８３年33歳で、まだ大学院生気分が抜けない生意気な若造でしたが、今年で本学に37年間勤続することになり、月日の経つのは早いものだと、今さらのように感じ入っております。当時は、旧校舎がいまだ旧制高校のような趣を残しており、本学を三島由紀夫が神道学科（当時）の有職故実の講義を聴講するために通ったという伝説を聞き、なるほどと感動することしきりでした。

小生の専攻は神秘主義ですが、どこか神道に惹き付けられるものがあったのかもしれません。それに当時の国学院大学には、ドイツ語の先生で神秘主義の先達でもある種村季弘先生がおられ、憧れの先生に気さくにいろいろ教えていただいたことも楽しい思い出です。これからも、国学院大学で研究した成果を生かして残された期間を使って勉強していきたいと思っております。

文学部教授　**高橋 誠**

一日（の華）を摘め

早いもので国学院大学に赴任して25年が経ち、退職の日を迎えた。非常勤講師の時期を含めれば四十数年の大学教員生活であり、本学との関わりも32年に及ぶ。前任校は国立の理系大学で、恵まれた教育・研究環境の中にいた。しかし、お誘いを受けて、また史学専攻の学生とともに学びたいという思いもあり本学に移った。西洋前近代史の演習担当者として学生に接し、楽しくまた真摯に勉学できたことに心から感謝したい。今後も細々ではあれ研究を続けていきたいと願っている。

私が学生であった時代は「大学紛争」の激しい時代で十分な授業を受けることができなかっただけに、学生諸君には在学中に人生の基礎をしっかりと作ることを願いたい。そしてホラティウス『歌章』にある表題の言葉を贈りたい。ラテン語ではcarpe diemであるが、決して刹那主義的な生き方の勧めではなく、魂の平静の中に生きるためにも、一日を精いっぱい生きなさいということだ。最後に本学の一層の発展と教職員の皆さまの御健勝をお祈りします。

文学部教授　**古山 正人**

39年間国学院大学に勤務して

喜びも悲しみもではないけれど、国学院大学に勤務した39年間の年月は私の人生の70年の半分以上。うれしいこと悲しいことつらかったことなどいっぱいありました。大正９年に大学令で国学院大学が大学として認められてから１００年しかたっていないのを考えると、39％はこの大学で教鞭をとったことになるのだから、教えた学生の数はもとより私より早く大学と離別した教職員の数は膨大で、おそらく記憶が薄れた、あるいは記憶から消えてしまった教職員や学生の数のほうが多いかもしれません。また今でも強く印象に残っている学生や教職員の数もかなり多いと思います。

私が知らない私が勤務する以前の国学院大学については、知り合いの学生や教職員や友人に丸谷才一氏の『笹まくら』（河出書房新社）と中野孝次氏の『わが体験的教育論』（岩波新書）の２冊を読むことを薦めています。私の大学での想い出は一言では尽くせないのでいつか文章にまとめたいと思っています。楽しみにしてください。

法学部教授　**横山 謙一**

共に学ぶ楽しさ

もう40年以上前になるが、大学卒業を前に、早く実社会に出てみたいという思いが強まった。学寮を引き払う時には、積み上がった多くの本を学友に譲った。もう、読むこともあるまい、と。だが、就職した政府関係の消費者問題専門機関「国民生活センター」は、研究所時代の名残りもあり、自主的な読書会や研究会が開催され、他機関との横断的な学習会、研修会と、毎日が勉強の日々だった。大学教員になって、楽しく、ありがたかったのは、学生たちと一緒に勉強できたことだ。消費経済学担当で、食の安全、農業問題などを現場から学ぼうと、最新の現場に赴いた。ゼミ合宿では有機農家を訪ねたり、アジアの農村指導者を育成しているアジア学院のワークショップに参加したりした。オムニバス授業「自然との共生」の担当では、環境考古学、民俗学、宗教学、歴史学、生物学、法学などの先生方から、まさに「国学院の学び」を受けることができた。

ありがとうございました。

経済学部教授　**久保田 裕子**

所属別128期卒業生・修了生数

◎大学院◆博士前期課程修了◇文学研究科52人▽神道学・宗教学専攻９人▽文学専攻17人▽史学専攻26人◇法学研究科▽法律学専攻１人◇経済学研究科▽経済学専攻10人**◆博士後期課程修了**◇文学研究科10人▽神道学・宗教学専攻２人▽神道学専攻１人▽文学専攻４人▽史学専攻３人◇法学研究科▽法律学専攻０人◇経済学研究科▽経済学専攻０人**◆博士後期課程所定単位修得退学**◇文学研究科15人▽神道学・宗教学専攻２人▽文学専攻８人▽史学専攻５人◇法学研究科▽法律学専攻０人◇経済学研究科▽経済学専攻０人

（大学院合計88人）

◎学部（９月卒業含む）**◆文学部**８２０人▽哲学科64人▽史学科２３７人▽日本文学科３１１人▽中国文学科57人▽外国語文化学科１５１人**◆経済学部**５６７人▽経済学科２３１人▽経済ネットワーキング学科１７０人▽経営学科１６６人**◆法学部**▽法律学科５２９人▼法律専攻４２７人▼法律専門職専攻53人（３年次卒業１人を含む）▼政治専攻49人**◆神道文化学部**▽神道文化学科１９０人**◆人間開発学部**３８２人▽初等教育学科１３６人▽健康体育学科１４６人▽子ども支援学科１００人

（学部合計２４８８人）

◎専攻科▽神道学専攻科神道学専攻19人

（専攻科合計19人）

◎別科▽神道専修Ⅰ類０人▽神道専修Ⅱ類６人

（別科合計６人）

［総計２６０１人］

博士号の授与

大学院博士後期課程　10人が課程博士号

大学院博士後期課程を修了する10人に対して、博士号が授与される。対象者氏名、学位の種類、論文題目、主査、副査などは**別表**の通り。

（敬称略）

氏名	専攻	学位の種類	論文題目	主査	副査
半田 竜介	神道学・宗教学	博士（神道学）	明治前中期における神道と政治—丸山作楽を中心に—	阪本 是丸本学教授	武田 秀章本学教授 齊藤 智朗本学教授
山﨑 洋史	神道学・宗教学	博士（宗教学）	宗教と認知行動的セルフモニタリングに関する研究—青年期の適応を通じて—	井上 順孝 本学大学院客員教授	遠藤 潤本学教授 黒﨑 浩行本学教授
李 和珍	神道学	博士（宗教学）	グローバル時代における日韓の近代新宗教の展開—妙智會教団と圓佛教の事例を中心に—	井上 順孝 本学大学院客員教授	遠藤 潤本学教授 黒﨑 浩行本学教授
呉 寧真	文学	博士（文学）	古代語複合動詞の敬語形の研究	吉田 永弘本学教授	小田 勝本学教授 大久保 一男本学名誉教授 小柳 智一聖心女子大学教授 本学兼任講師
川嶋 麗華	文学	博士（民俗学）	火葬をめぐる民俗学的研究	新谷 尚紀 本学大学院客員教授	小川 直之本学教授 大石 泰夫本学教授 飯倉 義之本学大学院兼担准教授
石垣 絵美	文学	博士（民俗学）	疱瘡習俗の研究	小川 直之本学教授	大石 泰夫本学教授 服部 比呂美本学准教授 新谷 尚紀本学大学院客員教授
薛 静	文学	博士（文学）	近代日本語教科書における謙譲表現	諸星 美智直本学教授	吉田 永弘本学教授 カイザー・S本学大学院客員教授
伊藤 陽平	史学	博士（歴史学）	日清・日露戦後の政界再編と戦後経営—対外危機下の国内融和—	上山 和雄 本学大学院客員教授	樋口 秀実本学教授 櫻井 良樹麗澤大学教授 本学大学院兼任講師 大豆生田 稔東洋大学教授
平井 倫行	史学	博士（歴史学）	刺青の装飾学—近代転換期における日本的身体観の変遷と衣裳文化—	小池 寿子本学教授	藤澤 紫本学教授 山本 聡美早稲田大学教授
松浦 里彩	史学	博士（歴史学）	柿右衛門様式研究—文様と構図の分析を中心に—	藤澤 紫本学教授	小池 寿子本学教授 荒川 正明学習院大学教授

惜別の言葉

「ガラ携」世代からスマホ世代へ

経済学部教授　**紺井　博則**

この3月で満40年の教員生活を終えることになりました。

気がつけばという感覚で、あっという間の日々でしたが、長きにわたり本学、そして経済学部に居座ることができたのは、本学の寛容の精神と、経済学部の多様な学派を尊重するという気風に支えられたからだと思っています。

私の研究領域である金融分野はもとより、教育活動の中でも情報化社会の進捗度は凄まじく、だんだんと気後れするようになってきました。今の時代はクリックひとつでグローバルに膨大な情報が容易に得られます。しかし、その情報源や虚実の判断についてはそれぞれの真実への向かい方、想像力の程度に委ねられます。情報化社会の持つ二面性を意識した大学教育も「ガラ携」世代から「スマホ世代」にバトンを譲る他なさそうです。

本学では少なくない役職をお受けしてきたので、その折々にお世話になった本学の教職員の皆さまに改めてお礼を申し上げます。

おわび

経済学部准教授　**野田　隆夫**

わたしは、長く飽きもせずにジャズという音楽を聴き続けてきました。ジャズの醍醐味は即興演奏の競い合いにあります。奏者は、他より斬新・個性的で魅力あるフレーズを奏でなければなりません。そのため、奏法のイノベーションが連続して起こり、1970年ぐらいまでの50年間にジャズは急速に変貌しました。大きく変貌させた天才たちだけでなく、勇気をもって即興に挑んだ無名の奏者にも深いあこがれを抱いています。

わたしは、経済学の基礎の授業を担当してきました。そこでは、理屈を説明するために、たとえ話を多用します。どんな話を使うか、当然あらかじめ用意してあるのですが、ときどきジャズの副作用なのか、授業中に、新しい話を作ろうという即興への衝動を抑えられなくなることがありました。あとで受講生に尋ねると、その評価は芳しくないことが多かったのです。このひそかな楽しみ、もう手遅れですが、反省しております。

激動の戦後日本をふり返って

経済学部教授　**古沢　広祐**

戦後間もない幼少期、都内でも原っぱがありトトロの森的な世界が近隣にあった。高度経済成長をへての大学入学時、ちょうど学生運動隆盛期であり、バリケード封鎖で半年以上授業無し状態だった。そこでは自主講座運動が展開しており、現実の社会問題（当時は公害、自然破壊が深刻化）を現場に出向いて学生・教員・市民が対等に学び合う場が形成されていた。

各大学での自主講座のみならず、全国各地の現場でテント合宿（2週間）する学びの場「移動大学」（KJ法と文化人類学・探検学で知られる川喜田二郎氏が主宰）も開催されており、初回（1969年、長野県黒姫高原）から参加したのだった。地域住民運動からの学びとともに、環境・農・食に関する内外の諸運動にも参加し関わることで、アクションリサーチ的な生き方が身について今に至っている。

人生70年の歩みをふり返って、戦後の日本社会の激動の歩みについて身をもって体験してきたという実感を今かみしめている。

高齢者講習を受けて

神道文化学部教授（特別専任）　**阪本　是丸**

この2月に、運転免許証更新のための高齢者講習を受講してきました。合格・不合格はないので気楽な講習でしたが、その半面、満70歳の定年退職。若木が丘ともさよならの日も近いと実感したこともあって、妙にあれこれ想い起こさせられた講習でした。

想えば、かの「大学改革」が声高に唱えられた時期以降、自己点検、神道系新学部設置、COE、ORCなどに従事した日々のことが走馬灯のように頭を過り、年を追って学生たちと接する機会の少なくなった来し方が情けなく、ますます気分が滅入っている今日この頃です。

でも、洒落た学び舎に変身した「飛翔」するキャンパスを眺めていると、我が歩みにも少しは意味があったのでは、とも考え直すこともあります。とにかく、新しい革袋は出来ました。さて、それに盛る新しい「お神酒」の仕込みは如何？　きっと、葡萄酒好きの阿部美哉先生も楽しみに待っておられることでしょう。

親切で寛大なこころをありがとう

神道文化学部教授　**ヘィヴンズ・ノルマン**

私が初めて国学院に来たのは1985年ごろであった。当時日本文化研究所の嘱託研究員として雇われ、主に学術翻訳プロジェクトや研究者の国際ネットワーク作りに携わっていた。その時点では、30年以上国学院の皆さんのお世話になることは想像しなかった。

その三十数年前の日文研を考えると今との違いが顕著に感じる。当初、電子メールを利用できる教職員が少なかった覚えもあるが、デジタル革命の最中にあって、毎日のような目覚ましい技術変化に対応せざるを得なかった。和文タイプライターからワープロ専用機やPCへ、メモリ量も数キロバイトから現在のテラバイト級まで、信じがたい規模に成長してきた。

もともと私は「参与観察者」として日本にやってきたが少しずついあいだ、変化していない事はひとつある。それは国学院の皆さんの親切で寛大なこころである。いつまでも感謝します。

神社界からの表彰

神職課程に学び、成績優秀な令和元年度卒業・修了生に対して神社界から次の各賞が贈られた（敬称略）。

◇**神宮大宮司賞**▽清原秀嗣（神専攻）▽藤山廣論（神文）▽丸尾良樹（同）

◇**神社本庁統理賞**▽宇賀神佳子（神専攻）▽木村和彦（神文）▽吉田麻那（同）▽大竹亮（別神Ⅱ）

◇**東京都神社庁長賞**▽小間澤智子（神専攻）▽鳥海真史（神文）▽桑原遥（同）▽伊東拓真（別神Ⅱ）

◇**神社本庁統理賞**▽宇賀神佳子（神専攻）▽木村和彦（神文）▽吉田麻那（同）▽大竹亮（別神Ⅱ）

◇**東京都神社庁長賞**▽小間澤智子（神専攻）▽藤山廣論（神文）▽丸尾良樹（同）

新卒業・修了生の資格取得人数

令和元年度卒業・修了生（9月卒業含む）のうち、各種資格を取得した人数は次の通り。

◇神職▽明階検定合格・授与22人（学部・大学院）▽明階検定合格・正階授与120人（専攻科・学部）▽正階検定合格・授与6人（別科神道専修Ⅱ類）▽権正階検定合格・授与0人（別科神道専修Ⅰ類）◇博物館学芸員114人（学部）◇社会教育主事16人（学部）◇図書館司書84人（学部）◇学校図書館司書教諭22人（学部）◇教職▽高校一種382人（学部）▽中学一種306人（学部）▽小学校一種145人（学部）▽特別支援学校一種19人（学部）▽幼稚園教諭一種130人（学部）▽保育士88人（学部）▽中学専修5人（大学院）▽高校専修5人（大学院）

若木育成会が成績優秀者表彰

若木育成会（堀江久教会長）は、令和元年度卒業・修了生で優秀な成績を修めた次の学生を表彰する（敬称略）。※は3年次卒業

◇文学部＝鵜澤万実子（外文）、根本実祈（日文）◇経済学部＝中国奏人（経営）、吉澤大我（同）◇法学部＝朝倉良介、金谷美里、矢ヶ﨑和※◇神道文化学部＝藤山廣論、丸尾良樹◇人間開発学部＝片山沙里（健体）、毛塚美穂（初教）◇専攻科神道学専攻＝宇賀神佳子、清原秀嗣◇別科神道専修＝伊東拓真（別神Ⅱ）、大竹亮（同）

ご卒業おめでとうございます

大学院の新修了生・所定単位取得退学者には、本学から「オリジナル図書カード」と「オリジナル一筆箋」、5学部・専攻科・別科の新卒業生・修了生には、本学から「オリジナルペンケース」、若木育成会からは、「オリジナル名刺入れ」を贈ります＝**写真**。

教職員人事

【採用】

◎大学事務局◇嘱託▽船渡敏伸（総務部人事課）

令和2年3月1日付

【退職】

（3月10日現在）

◆定年

◎文学部◇教授▽金子修一▽高橋誠一◎経済学部◇教授▽横山謙一◎経済学部◇教授▽久保田裕子▽紺井博則▽古沢広祐◇准教授▽野田隆夫◎神道文化学部◇教授▽ヘィヴンズ・ノルマン◇教授（特別専任）▽阪本是丸

◆自己都合

◎大学事務局◇専任▽関口久美子（教学事務部教務課書記）▽古越慶子（学術メディアセンター事務部図書館事務課〈たまプラーザ〉書記）

◆任期満了

法人◇嘱託▽三浦夕奈（内部監査室）

大学◎経済学部◇助教（特別専任）▽齊藤光弘◎神道文化学部◇准教授（特別専任）▽小野和伸◎教育開発推進機構◇教授（特別専任）▽銀杏陽子◇准教授（特別専任）▽唐沢はるみ◎研究開発推進機構◇助教▽上西亘◎大学事務局◇嘱託▽増永容子（教学事務部教育開発推進機構事務課）◇カウンセラー▽田中千穂（学生事務部学生生活課学生相談室）

以上、令和2年3月31日付

インフォダイジェスト

校　友　課

◎住所変更したら連絡を

卒業後に住所・氏名・勤務先などが変更した場合は、はがき・電話・ＦＡＸまたは国学院大学ＨＰ（卒業生⇒住所変更などのご連絡）で校友課に連絡をお願い致します。

◎各種調査・個人情報について

本学が電話･郵便物などで院友の皆さまの個人情報について調査する場合は､「渋谷キャンパス住所および国学院大学校友課名」で実施し､返送先･連絡先は本学となります｡また各種発送物が届出住所に配達できない場合､大学および院友会から電話にてお問い合わせする場合がございます｡郵便物･電話などで不審な点がございましたら即答せず､校友課までお問い合わせください｡なお､本学では卒業生名簿の作成･販売･閲覧サービスは行っておりません。

問校友課
（☎03・5466・0131、FAX03・5466・0185）

学　生　生　活　課

◎日本学生支援機構奨学金を返還する方へ

日本学生支援機構（ＪＡＳＳＯ）奨学金の貸与者は、次の要領で返還を円滑に行ってください。

①住所･氏名･勤務先･連帯保証人などに変更があった場合は､速やかにＪＡＳＳＯへ連絡してください｡その際は奨学生番号が必要となりますので､「返還確認票」「返還のてびき」を大切に保管してください。

②返還困難な状況が生じた場合、ＪＡＳＳＯに減額返還や返還期限猶予を願い出ることができますのでＪＡＳＳＯに相談してください。

問日本学生支援機構奨学金相談センター
（☎0570・666・301〈ナビダイヤル〉）

就職担当３課（キャリアサポート課・教職センター・たまプラーザ事務課）

◎卒業後も協力を、進路未定者は相談を

新卒業生の皆さんには､進路の別を問わず本学在学生の就職活動支援（ＯＢ･ＯＧ訪問など）にご協力をお願いします｡また､進路未決定の方には継続して相談に応じますので､お気軽にご利用ください。

問キャリアサポート課（☎03・5466・0151）
教職センター（☎03・5466・0152）
たまプラーザ事務課（☎045・904・7704）

教　務　課

◎証明書の発行方法

各種証明書の発行方法は、①本学内の証明書自動発行機（在学当時の学籍番号とパスワードによる）②郵送③窓口④コンビニエンスストア発行－の４通りです。①は即時発行、②③は原則として申請日から３業務日後（長期休暇前後は、さらに時間を要します）の発行、④については本学ＨＰ（卒業生⇒証明書発行）に詳細を掲載しています。英文証明書は約１週間後の発行となります。

※申請時には身分証明書（健康保険証や運転免許証など）が必要となります。氏名などに変更があった場合は申請時に戸籍抄本を添えてください

料各証明書とも１通400円（英文証明書は1000円、郵送希望の場合は別途送料）、コンビニ発行は和文・英文証明書とも600円

問教務課（☎03・5466・0137）
たまプラーザ事務課（☎045・904・7703）

◎卒業論文の返却

必ず各指導教員から返却を受けてください。

エクステンション事業課

◎オープンカレッジを開講しています

エクステンション事業課では、生涯学習の場として、渋谷・たまプラーザ両キャンパスでオープンカレッジを開講しており、神道、文学、歴史、書道などの講座を多数設置しています。渋谷キャンパスでは「日本国憲法の日本語文法」「江戸時代の古文書を読む〈初級〉」「将軍の日光社参と江戸幕府」の３講座を新たに開講します。

院友には、入会金5000円を3000円とする割引制度があります。会員には、夏季公開講座などエクステンション事業課主催の各種講座をご案内します。ぜひパンフレットをご請求ください。

問エクステンション事業課（☎03・5466・0270）

図　書　館

◎卒業後も図書館を利用できます

卒業後も渋谷･たまプラーザ両キャンパスの図書館が利用（館内での閲覧、館外貸出、文献複写）できます。貸出冊数は和・洋書ともに５冊、日数は14日間です。遠方にお住まいの方で文献複写が必要な場合は、文書による申し込みもできます。

図書館カウンターで申し込むと、翌年４月末まで有効の「図書館利用者カード」（両館で使用可）を発行します。

問図書館事務課（☎03・5466・0159）

※カード発行には、運転免許証など現住所が確認できる身分証明書が必要です

人　事　課

◎格安料金で自然を満喫　厚生寮をご利用ください

本学では、卒業生に対して厚生寮を格安料金で開放しています。

▶叢隠寮（神奈川県箱根町）

叢隠寮は故折口信夫（釈迢空）博士の別荘であった叢隠居を昭和33年に大学が譲り受け、これを保存するとともに宿泊施設を増築しました。寮には良質な温泉もあり、四季折々に変化する自然の中にある快適な保養所となっています。平成30年度に全面的な改築工事を行いました＝写真。

料１泊２食付き9000円（入湯税含む）
※チェックイン15時、チェックアウト10時

申利用日の１カ月前から人事課（☎03・5466・0105）で受け付けます。受け付け後に利用案内・申込書を送付します。詳細は本学ＨＰでも案内しています。

▶蓼科寮（長野県立科町）

蓼科高原にあり、夏は近くにある御泉水自然園の散策、冬はスキーと四季折々の自然を満喫できます。また、敷地内にはバーベキュー棟もあり、多人数で楽しめます。

料１泊２食付き4000円（冬期は暖房費が別途加算）
※チェックイン15時、チェックアウト10時

申利用日の３週間前から人事課（☎03・5466・0105）で受け付けます。受け付け後に利用案内・申込書を送付します。詳細は本学ＨＰでも案内しています。

総　務　課

◎広くご寄付を募っています

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。本法人に対するご寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。利用可能なクレジットカードは、ＶＩＳＡ、ＭａｓｔｅｒＣａｒｄの２種類です。

募集するご寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」などに加え、学生の課外活動を支援するために役立てられる「課外活動支援（スポーツ強化部会など）」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツ活動や課外活動などに熱心に取り組んでいる在学生や本学に向け、本学ＨＰからメッセージを投稿してもらう仕組みです。ワンコイン（500円）からご寄付が可能で、メッセージはそのままＨＰに公開されます（匿名可）。ぜひ後輩にエールをお寄せください。

各種募金に関する情報は、本学ＨＰ（http://kifu.kokugakuin.ac.jp/）で閲覧できます。

◎税制上の優遇措置

本法人への指定寄付金は、次の通り税制上の優遇措置を受けることができます。

個人＝個人所得税については、特定公益増進法人への寄付金としての「所得控除」、または一定要件を満たした学校法人などへの寄付金としての「税額控除」のうち、いずれかの税制を寄付者が選択し、確定申告を行うことで所得税が減免されます。なお、多くの場合「税額控除」を選択すると減免が大きくなります。個人住民税については、お住まいの自治体が条例により本法人への寄付を税額控除の対象と指定している場合に限り、確定申告を行うことで住民税が減免されます。

法人＝特定公益増進法人に対する寄付金として扱われ、所定の計算式に基づく限度額まで該当事業年度の損金に算入することができます。寄付金の申し込みと納付が確認できましたら、本法人発行の領収書と文部科学省発行の証明書をお送りしますので、確定申告などの税務手続きを行ってください。

◎受配者指定寄付金

日本私立学校振興・共済事業団が取り扱う制度で、この制度を利用して私立学校へ寄付をした企業等法人は、法人税法上、支出した寄付金の全額を損金の額に算入することが認められています。

◎遺贈による寄付制度

「遺贈による寄付」とは、院友・在学生の父母・教職員・一般篤志家が保有されている資産の一部を、将来遺贈の形で寄付していただき、本法人の教育研究活動のより一層の充実発展のために支援をいただく制度です。

本法人では、この制度を実施するにあたり、三井住友信託銀行と協定を結んでいます。本制度の利用を希望される場合は、総務課または最寄りの三井住友信託銀行までご一報ください。

問総務課寄付金担当（☎03・5466・0111）

入　学　課

◎院友子弟等特別選考入学者選抜のご案内

本学では、院友の子弟らを対象とした「院友子弟等特別選考入学者選抜」を実施しています。

出願資格は、高校（中等教育学校含む）卒業あるいは卒業見込み、または高校卒業と同等以上の学力があると認められ、本学の学部・大学院・専攻科・別科などを卒業・修了した方の２親等以内の親族（配偶者・姻族含む）で、本学への入学を第１希望とする人。本学・本法人・姉妹法人の現職専任教職員についても院友に準じます。本学進学を希望する親族の方がいましたらご案内ください。

問入学課（☎03・5466・0141）

国学院大学生協

◎卒業アルバムの購入受け付け中

大学生協では現在、卒業アルバムの購入を受け付け中です。先にお送りした郵便振替用紙（渋谷・たまプラーザ店舗でも配布中）か郵便局備え付けの郵便振替用紙をご利用いただき、通信欄に、学部・学科・学籍番号・郵送先住所を明記の上、郵便局の窓口でお振り込みください。５月８日㈮までお振り込みを受け付け、９月末ごろの発送になります。

※保護者が購入された場合、「卒業生本人が写っていない」と連絡が寄せられることがあります。写真撮影をされているか確認した上でお申し込みください

料１万3500円（消費税・送料込み）

申振込先（加入者名）・口座番号＝国学院大学生活協同組合・0015－6－50152

◎オリジナルスイーツや人気グッズはいかが？

大学生協では、オリジナルスイーツの「国学院どらやき」（1550円）とコロンバンとの企画による「国学院クッキー」（18枚入1080円、33枚入2160円）や、ぬいぐるみをはじめとした本学マスコット「こくぴょん」グッズ、ブルゾンやキャップなどの本学オリジナルグッズを販売しています。配送も承っています。

左から、国学院どらやき、「こくぴょん」グッズ、国学院クッキー

問国学院大学生活協同組合（☎03・5466・0169 またはhttp://www.kgucoop.or.jp）